

[特別活動]

当たり前前のことを当たり前にする生徒の育成

— 生徒会による「当たり前前のこと運動」の実践を通して —

佐藤 吉史*

1 主題設定の理由

実践を行った中学校は、生徒の反社会的行動により生徒指導が困難な学校であった。そのため、生徒の自主的・自律的な取組を仕組むことができず、望ましい集団生活を送ることが非常に難しい学校であった。翌年、反社会的行動は沈静化するが、時間を守ること、挨拶をすることや正しい服装で生活することなど、集団としてのルールやマナーを守ろうとする意識が低く、「当たり前前のことを当たり前にやろう」とする生徒は少なかった。

そのような生徒の環境に目を向けると、携帯電話・TV・携帯ゲームなどがあふれ、生徒の生活を満足させるものがありふれている。そのため、集団生活を送らなくとも一人で生活を送ることができると考える生徒が少なくない。そのような実態から、集団生活を送る上で大切な「当たり前前のこと」を守ろうとする意識が希薄になっていると考える。

また、中学校学習指導要領解説の特別活動編によると「生徒個人は、様々な集団や社会の一員として生活しているが、この中で各自の果たす役割は何か、また自分はどのような責任を果たさなければならないかを自覚することは、集団全体の発展にとっても、個人の成長にとっても、将来社会人として自立していくためにも大切である。」とも解説されている。つまり、当たり前前と考えられる個々の生徒に与えられている役割を果たしたり、ルールを守る等の規範意識を育んだりすることは、集団全体においても個人においてもとても価値があると考えられる。学校教育において、「当たり前前のことを当たり前にする」生徒を育成する意義は大きい。

筆者は平成21年に生徒会担当となり、当時の総務に全校生徒を対象に、当たり前前のことをどれだけ意識して生活できているかを把握するための実態調査を実施させた。調査は質問紙法を用い、質問項目は生徒会総務の生徒と話し合い、時間を守っているか、先生や友人に挨拶をしているかなど、以下の17項目を設けた。

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 1 朝や帰りに声を出して友人に挨拶をしている。 | 10 授業では私語をせず、集中して取り組んでいる。 |
| 2 朝や帰りに声を出して先生に挨拶をしている。 | 11 学校の備品（ボールや机、いすなど）を丁寧に扱っている。 |
| 3 部活のときに声を出して挨拶をしている。 | 12 学級の係を忘れずに行っている。 |
| 4 授業の始まりや終わりに声を出して挨拶をしている。 | 13 給食当番を忘れずに行っている。 |
| 5 学校に遅刻をしていない。 | 14 清掃を一生懸命行っている。 |
| 6 朝会などの集会の集合時間を守っている。 | 15 目上の人に対して正しい言葉遣いをしている。 |
| 7 授業のタイム着席を守っている。 | 16 友人に対し、思いやりの心をもって接している。 |
| 8 清掃の集合時間を守っている。 | 17 家庭学習を毎日行っている。(時間は問わない) |
| 9 正しい服装で生活をしている。 | |

これらの項目に対して、「まったくその通り…3点」「ややその通り…2点」「やや異なる…1点」「まったく異なる…0点」の4段階の評定尺度（各項目最高3点、最低0点）を用いて回答を求め、その集計を行った。その結果は、図1、図2の通りである。

図1からは、挨拶をすること、時間を守ること、授業・学習に関わることが他の項目に比べること得点が劣っていることが分かる。また、図2より合計評定点が34点以下の生徒が半数近くいることも分かる。つまり $\frac{17\text{項目} \times 2\text{点 (肯定的回答のうち最低点)}}{2} = 34\text{点}$ を下回る生徒が半数近くいるということである。このことから、すべての項目にわたって得点の低い下位群の生徒が存在していることが分かる。

そのような実態に対し、当たり前前のことを意識して行動することに関する下位群の子どもの底上げを図りたい。そして、当たり前前のことを当たり前にしようとする意識を高めさせ、その態度を育てたいと考え本研究主題を設定した。

* 南魚沼市立塩沢中学校

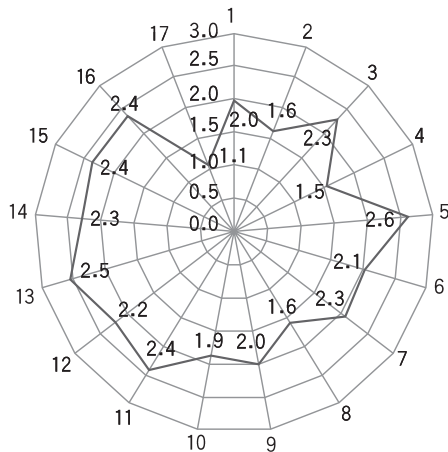


図1 各質問項目における評定の平均値

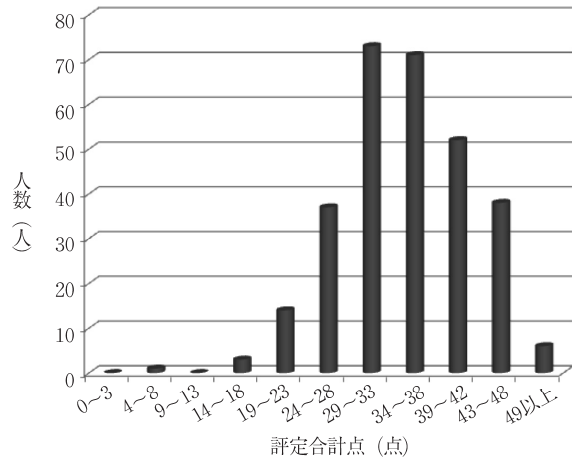


図2 評定合計点と人数の関係

2 研究の目標

「当たり前のことを当たり前にする」生徒を育成するために、生徒会活動において生徒の主体的な活動を促し、「当たり前のこと運動」をすることの有効性を明らかにする。

3 「当たり前のこと運動」と研究仮説

(1) 「当たり前のこと運動」とは

「当たり前のことを当たり前にすること」ができるように、各委員会は学校全体の事態、各学級はそれぞれの学級の事態に応じて活動内容を考え、取り組む運動である。生徒会総務が指揮を執り、活動内容の計画・実施まですべて生徒の手で行われる。平成21年度から運動をはじめ本年度で2年目になる。

(2) 研究仮説

生徒会活動において、以下の3点に着目した「当たり前のこと運動」を行えば、生徒の自主的・主体的な活動を促し、集団生活が向上するであろう。

- ① 実態調査を生かした「当たり前のこと運動」の取組内容の策定
- ② 評価活動を取り入れた「当たり前のこと運動」の運営
- ③ 委員会・学級による活動の実施

4 指導の実際

(1) 実態調査を生かした「当たり前のこと運動」の取組内容の策定

① 意義

「当たり前のこと」といっても多岐にわたり、生徒にとって見ればある程度定着している事柄もあれば、極端に意識が低い事柄もある。実態調査をすることで、本校の生徒の定着していることと意識されていないことを明確にすることで、一年間という決められた時期の中で、より効果的に活動を進めることができる。

② 取組の組織

「当たり前のこと運動」に取り組む組織は、委員会および学級ごととした。本校の委員会活動は全員加入制である。したがって、委員会および学級で活動をすることで、1人当たり2つの活動を担当することができ、全校を巻き込んだ生徒主体の活動とすることができる。

そして、それぞれの委員会、学級をまとめる立場として、拡大委員長会議、評議員会を置いた。拡大委員長会議は各委員会の委員長と総務で組織し、評議員会は各学級の級長と総務で組織させ、各取組の調整に当たらせた。

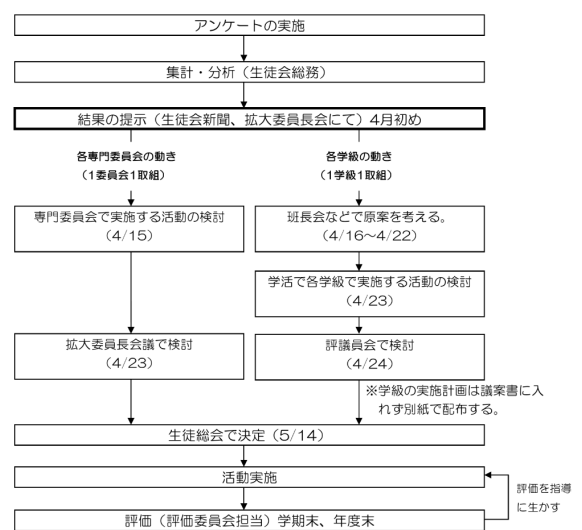


図3 「当たり前のこと運動」の展開

③ 取組内容の策定

拡大委員長会議および評議員会を4月に開催し、実態調査の結果を公表した。その会議の中で、結果の分析作業を行い、どの部分が意識されていて、どこが意識されていないかを討議させた。後にその分析結果をまとめ、全校生徒に報告した。その分析結果を生かして、各委員会・各学級で「1委員会1取組」「1学級1取組」をどのような活動にするか討議させ、取組内容、実施時期、方法などを決定させた。決定の際にはそれぞれの取組内容が大きく重なったり、実施時期が同じになったりしないように配慮した。

表1 「1委員会1取組」年間活動計画

	委員会名	スローガン	活動内容	実施時期(月)													
				5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
あいさつ	生活	元気よく!!～あいさつが当たり前のへ～	玄関前でのあいさつ運動	実施													
	JRC	あいさつ運動	募金活動をしながらいさつ運動	募金活動のとき													
	向上	あいさつができるに	玄関前、ギャラリーであいさつ運動、「自分から進んで10人にあいさつしよう」を呼びかけ、達成状況を調査する。	実施						実施				実施			
時間	評価	25分スタート運動!!	全校朝会や学年朝会の時の違い出し	実施	←											→ 実施	
	放送	No!チャイムDay	1日中チャイムを鳴らさない。タイム着席ができていない人数を放送委員がチェックし、集計する。						実施				実施				
	体育	清掃遅刻0スタート	委員長の放送での清掃5分前のよびかけ OSで同じ時間に各クラスの委員がよびかけ	毎月第1水曜日													
	広報	生の時間への意識を高める	ポスターを作り、各クラスに掲示する	実施													
	2学年	タイムキーピング～時間を守ろう2学年～	タイム着席、整列短縮などのよびかけ、タイム着席は学級対抗、優秀クラスを発表する。	実施	←												→ 実施
	3学年	50分間授業時間を確保しよう3学年	タイム着席を呼びかけてチェックする。1日に3回できない人がいたら、OSの雑巾がけをする。	毎回のテスト期間													
清掃	園芸	校庭のゴミ0!運動	校庭のゴミを委員みんなで拾う。							実施							
	校外	校舎周りをキレイに	校舎周りのゴミ拾い													実施	
	整備	清掃ロッカーの点検 黒板クリーナーの掃除	ロッカーの点検とクリーナーの掃除			実施	実施										
きまり	1学年	学校の決まりを守って、充実した学校生活を送ろう!	週に2回廊下を走っている人をチェックし、優秀クラスに南雲杯のカップ(賞品)を渡す。	実施	←											→ 実施	
	保健	健康～まず自分ができてること～	手洗い、うがい、歯磨き、体づくりについての呼びかけやチェック活動など			実施							実施				
その他	ヘルマーク	ヘルマークで学校に貢献しよう!!	目標ポスターの作成	実施	←											→ 実施	
	図書	本を読む 生になろう!	各教室に図書室の本を置き、みんなが本を読めるようにする。	実施	←											→ 実施	
	応援	校歌強化活動	全校朝会の校歌のときに列の周りに応援委員が並び校歌を歌う。	実施	←											→ 実施	

表2 「1学級1取組」年間活動計画

学級	スローガン	具体的な取組
1年1組	はじめをつけ、やるときはやる1-1	タイム着席や授業態度などの呼びかけとチェック活動
1年2組	一致団結しよう!	1日に1回、全員と話をする。
1年3組	タイム着席を心がけよう1-3	タイム着席チェック
1年4組	異性と仲良くなろう!	毎日、班の異性と2回以上話をする。
2年1組	授業中の私語0	私語をしている人がいたら周りの人が注意をする。
2年2組	時間を守るクラスになろう	タイム着席チェック
2年3組	授業準備できたかY0!	次の授業の準備をしているかチェックをする。
2年4組	クラスの向上	タイム着席、授業準備、授業態度をチェックする
3年1組	34人の花を咲かせよう	生活ノートを書いて毎日提出する。
3年2組	チャイムとともに始まる授業	タイム着席チェック
3年3組	Lunch the speedy	給食準備に早く取り掛かる。班長が時間をチェックする。
3年4組	Look at clock	タイム着席チェック
3年5組	服装改善 違反ゼロ!!	月・金曜日の朝、班長が服装チェックをする。

④ 全校生徒への提案と承認

5月の生徒総会で生徒会長が「当たり前のこと運動」に取り組むことへの意義を全校生徒に話し、その計画の提案を行った。取組内容は、各委員長、各級長から全校生徒へ提案し、承認を取った。

(2) 評価活動を取り入れた「当たり前のこと運動」の運営

① 意義

評価を取り入れることは、客観的にその活動を振り返ることができる。自分たちの活動が独りよがりになることなく、また次へその評価を生かし、改善させることにもつながる。そして、自分が直接関わらなかった活動についても評価活動を通して、その意義を深く見つめることができる。

② 評価委員会による評価活動の運営

本校には評価委員会が存在する。前年度までその機能は、学校行事や学期末の委員会評価に限定されていた。今年度から「当たり前のこと運動」に対し、毎月委員が全校生徒に評価をさせ、生徒へその評価を返す活動を行った。1学級1取組は学級内評価、1委員会1取組は全校評価とした。その結果は学級掲示を活用して、全校生徒に周知させた。

③ 評価に対する振り返りと次の活動への提言

1月に、これまでの活動を総括するための振り返りを行わせ、次年度への活動の提言を行わせた。その結果は、通常の委員会活動とともに生徒総会の議案書に記載し、全校生徒に知らせた。(図4, 5)

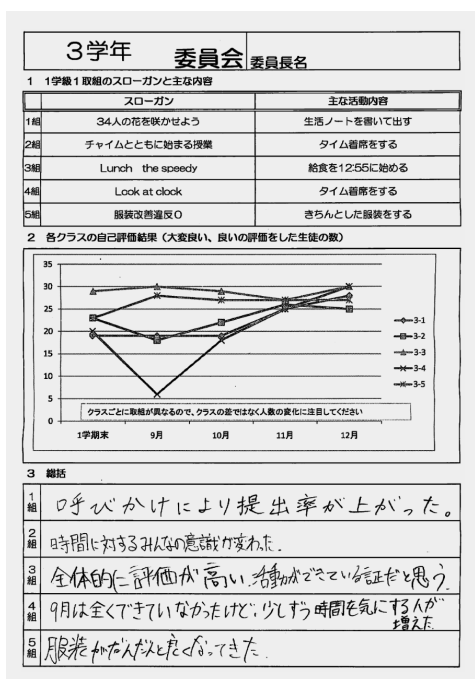


図4 「1学級1取組」の振り返りシート

1委員会1取組に関わる評価と提言



図5 「1委員会1取組」の振り返りシート

(3) 委員会・学級による取組について (主なものを抜粋して紹介する)

① 放送委員会 (1委員会1取組)

放送委員会では、時間がしっかりと守られないのは、チャイムが鳴ってから行動をしているからではないかと考えた。そのような実態から、チャイムが鳴らなくても時間を意識して行動できるように「NO!チャイムDay」という活動を企画した。この「NO!チャイムDay」という活動は、1日チャイムが鳴らない日を設ける活動である。活動の前には、「ただチャイムが鳴らない日ではなく、自分たちがしっかりと時間を意識して行動する日である」ことを説明した。活動中は時間が守られているかをチェックし、その結果を朝会で紹介した。

生徒にとってチャイムが鳴らない生活は初めての体験であり、最初は戸惑っていたが、時間が経つにつれて、お互いが声をかけ合い、時間通りに行動しようとする姿勢が見られた。

② 園芸委員会 (1委員会1取組)

園芸委員会では、校舎の外や駐車場、グラウンドなどにゴミが落ちていることに注目し、「校庭のゴミ0!運動」を行った。この活動は委員が、昼休みを利用してゴミ拾いを行う活動であった。年度末の振り返りでは、成果として「委員

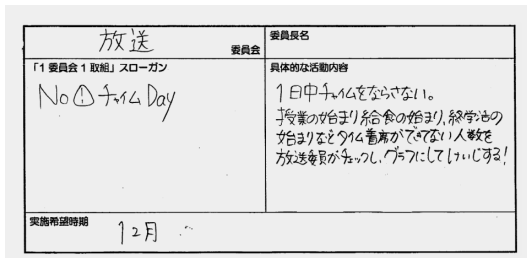


図6 「1委員会1取組」活動計画 (放送委員会)

のみみんなが一生懸命ゴミ拾いをし、校庭がきれいになった。」と評価している。一方で、全校生徒による活動の評価ではA評価が44%，B評価が49%であったために課題として「委員だけでなくボランティアを募ればよかった。また、活動後にも結果を放送などで全校生徒に伝えることができれば更に皆の意識を高められたと思う。」としている。やらされるのではなく、自主的に行うことの大切さや、活動結果を全校生徒に伝えることで他の生徒の意識を高めさせることができることに気付いたのではないかと考える。

③ 3年3組（1学級1取組）

3年3組では、給食を食べ始める時間が遅く、それに伴い食べ終わりの時間も遅れ、ゆとりをもって食事をする事ができないことや、昼休みの時間が確保できないことを学級の問題点として捉えた。そのような実態に対して、毎日の給食開始時間をチェックすることで、学級全体の時間に対する意識を高めようと考えた。配膳完了時間は給食当番の班長がチェックし、学級掲示してある表に記入にした。また、その時間は毎週発行される学級通信にも掲載し、保護者にも報告した。

取組を始めてすぐに、生徒の意識は高まり時間が守られるようになった。班対抗の取組になっていたが、しばらくすると給食当番ではない生徒が配膳物の運搬などの仕事を積極的に手伝うようになった。

これは、取組を始めて給食時間にゆとりができると、ゆとりをもって食べることや昼休みの時間が確保されることに対して多くの生徒が好印象をもったからであろう。

④ 向上委員会（1委員会1取組）

向上委員会ではあいさつをする生徒が少ないという実態から、「あいさつができる○中に」というスローガンのもと、朝、委員が玄関に立ち、「10人に積極的にあいさつを行ってください」と呼びかけ、終学活でそれができたかをクラスでチェックする活動を行った。その結果は、生徒玄関前の掲示板に大きく張り出され全校生徒に伝えられた。年度末の全校評価ではA評価が61%，B評価が36%であった。成果として「あいさつ運動は全校から高い評価を得ることができた。大きな声も出ていたし、先生方にもあいさつができた」としている。一方課題としては「朝だけではなく、他の時間にも行うように呼びかけたり、あいさつ運動の期間を伸ばしたりすると良いのではないか」という意見が上がった。活動を行うことで、成果が上がることに喜びを覚え、委員にも自信が付き、更なる発展を目指して建設的な提言を全校生徒に発信することができている。

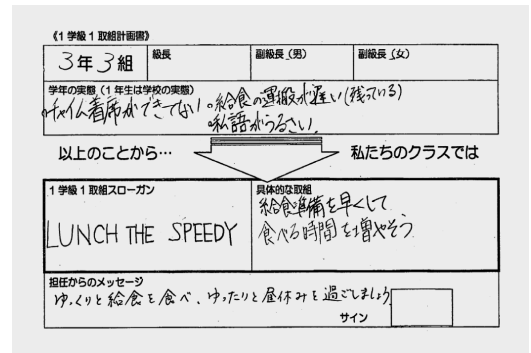


図7 「1学級1取組」活動計画（3年3組）

5 研究の成果

(1) 1月に、年度初めと同じ質問項目を用い、再度実態調査を行った。表3、図8はその結果である。ほとんどの項目で第1回の実態調査よりも評定平均が上昇していることが分かる。特に、「6 集会の集合時間を守る」、「7 タイム着席をする」、「8 清掃の集合時間を守る」の項目では0.35点以上の上昇が見られた。これらの項目に共通することは、「時間を守ること」である。時間に対しては、放送委員会をはじめとする6つの委員会、3年2組をはじめとする6つの学級が課題意識を持ち、「当たり前のこと運動」に取り組んだ。これらの取組が生徒の意識向上に大きく成果があったと考えられる。

表3 「当たり前のこと運動」による生徒の意識の変容①

質問項目	第2回実態調査 評定平均(点)	第1回実態調査 評定平均(点)	前回との比較
1 友人にあいさつをする	2.17	1.98	0.19
2 先生にあいさつをする	1.89	1.62	0.28
3 部活のときにあいさつをする	2.20	2.29	△0.09
4 授業の始まりや終わりにあいさつをする	1.71	1.55	0.16
5 学校に遅刻をしない	2.63	2.61	0.03
6 集会の集合時間を守る	2.44	2.05	0.39
7 タイム着席をする	2.43	2.06	0.38
8 清掃の集合時間を守る	2.35	1.58	0.77
9 正しい服装で生活する	2.27	1.99	0.28
10 授業では私語をしない	1.93	1.89	0.04
11 学校の備品を丁寧に扱う	2.45	2.42	0.03
12 学級の係を行う	2.36	2.22	0.14
13 給食当番を行う	2.60	2.53	0.07
14 清掃を一生懸命行う	2.38	2.28	0.09
15 目上の人に対して正しい言葉遣いをする	2.30	2.38	△0.07
16 友人に対し、思いやりの心をもつ	2.49	2.36	0.13
17 家庭学習を毎日行う	1.40	1.10	0.30

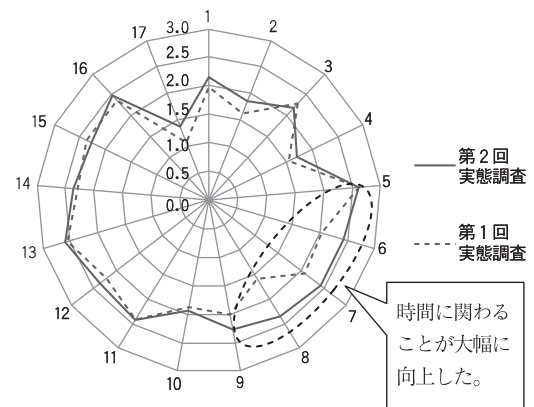


図8 「当たり前のこと運動」による生徒の意識の変容②

(2) 図9は、「当たり前のこと運動」前後の各個人における評定合計点の人数分布である。「当たり前のこと運動」実施前は、 17 項目(質問数) $\times 2$ 点(肯定的回答のうち最低点) $\equiv 34$ 点を下回る生徒が128名いたが、実施後は77名に減少し、43点以上の生徒は約2倍に増加した。

このように変容した大きな要因として、実施した「当たり前のこと運動」に直接関係の無い項目の評定が向上していることが挙げられる。

生徒の中で意識される「当たり前のこと」には、質問項目で挙げたような観点が存在し、それぞれの観点が密接な関係性を持っている。例えば、挨拶ができる生徒は時間も守ろうとする生徒が多いということである。そのため、挨拶や時間を守るといった様々な観点から運動を行ったことが、それらの観点を総括して含む「当たり前のこと」という意識の向上に大きく効果があったと考える。

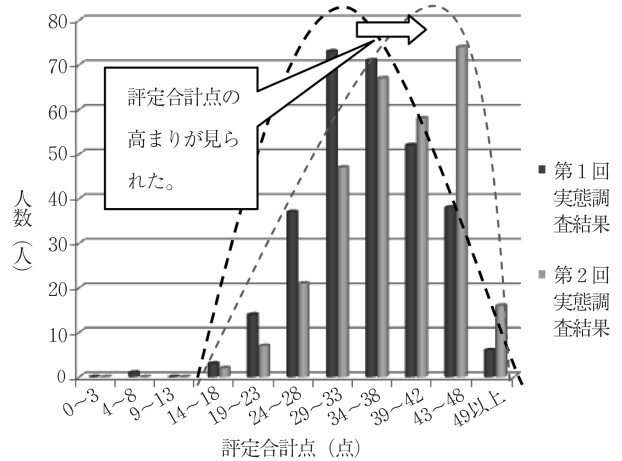


図9 「当たり前のこと運動」による評定合計点の変容

6 研究の課題

(1) 挨拶をすること、時間を守ることなどは概ね達成できたが、授業や家庭学習に関することは大きな成果が上がりなかった。(4, 10, 17の質問項目で2点以下であった。)学習に対しては、教師主導で指導が行われがちである。今後は、教師の指導と平行し、「当たり前のこと運動」として生徒が主体的に活動することで意識を向上させたい。

(2) 教師が「当たり前のこと」と思っていることが生徒には伝わらなかったことがあった。生徒のもつ「当たり前のこと」への希薄さから活動の達成目標が低く設定されることが見られる。年度始めのリーダー育成研修会などを通して、教師と生徒の「当たり前のこと」に対する共通理解を図り、更に活動の質を高めていきたい。

(3) それぞれの委員会、学級ともに計画された活動を実行したが、その活動内容を全校生徒に報告した活動は少なかった。その報告が無かった取組に対しては、全校生徒による年度末評価(表4, 5参照)が低くなっていた。朝会での連絡や玄関前での張り紙等で活動内容を知らせた放送委員会や向上委員会、図書委員会は評価が比較的高い。

活動内容を全校生徒に周知徹底させることで、活動に関わらなくても間接的に生徒の意識を高めさせる効果が期待できる。広報紙、昼の放送、朝会での連絡などを活用し報告するを行いたい。

クラス	7月	9月	10月	11月	12月
1-1	68.4	34.2	31.6	39.5	42.1
1-2	15.8	42.1	26.3	21.1	18.4
1-3	60.5	34.2	52.6	68.4	57.9
1-4	36.8	47.4	73.7	81.6	84.2
2-1	57.9	52.6	52.6	73.7	71.1
2-2	86.8	92.1	76.3	92.1	89.5
2-3	84.2	84.2	76.3	71.1	81.6
2-4	100.0	92.1	97.4	97.4	92.1
3-1	50.0	50.0	50.0	65.8	73.7
3-2	60.5	47.4	57.9	68.4	65.8
3-3	76.3	78.9	76.3	71.1	78.9
3-4	52.6	15.8	47.4	65.8	78.9
3-5	60.5	73.7	71.1	71.1	71.1

表4 「1学級1取組」月別評価(%)
(肯定的評価をした生徒の割合)

委員会	A評価	B評価	C評価	委員会	A評価	B評価	C評価
1学年	36.6	47.8	15.7	生活	64.8	32.8	2.5
2学年	31.0	67.2	1.7	整備	40.2	49.9	9.9
3学年	64.0	32.4	3.7	園芸	44.3	49.2	6.5
評価	47.8	49.0	3.2	ベルマーク	62.5	35.1	2.4
JRC	60.9	35.5	3.6	保健	59.3	34.3	6.3
図書	62.1	31.1	6.8	体育	49.5	39.5	10.9
放送	75.6	22.9	1.4	向上	61.2	36.0	2.8
広報	54.5	41.6	3.9	校外	55.0	40.7	4.4
給食	49.5	45.7	4.8	応援	63.7	33.9	2.4

表5 「1委員会1取組」年度末評価(%)

(A大変よく活動している Bまだ活動を良くすることができる。C改善が必要)

引用・参考文献

中学校学習指導要領解説特別活動編. 文部科学省. 2008年. P.9

堀口晃一 「生徒の自治力・自主性を高める生徒会活動・行事の工夫」. 『教育実践研究』第16集. 上越教育大学学校教育センター. 2006年. P.137

荒木 充 「『評価活動』を生かした生徒会活動の取組について」. 『教育実践研究』第19集. 上越教育大学学校教育センター. 2009年. P.159